

データ検証ではっきりと見えてきた 将来につながる「教科で培われる力」

生徒たちは授業の中で知識以外に何を学んでいるのか。また、授業での経験は社会人になった時本当に役立つのか。リクルートワークス研究所、辰巳哲子の研究からそのヒントを探ります。

リクルートワークス研究所
主任研究員 辰巳哲子

たつみさとこ ●1992年リクルート入社。社会人向けキャリア支援研修の開発や、高校生・高卒後未就業者のキャリアカウンセリングに携わり、2003年より現職。2009-2011年に中央教育審議会キャリア教育・職業教育作業部会委員も務める。全国各地で教員向け研修会や生徒の変容に関する共同研究を実施。

高校時代の教科の授業から何を獲得したか、それが現在にどうつながったかを社会人に調査

授業で生徒の生きる力を伸ばすのもキャリア教育、という認識が、学校現場に広がってきたのではないかと。明確な意図をもって授業を設計し、事前と事後の生徒の変化をみるという実践研究も増えたようだ。

それでも先生方の中には、授業での創意工夫がどこまで生徒たちの将来につながっているか、まだ見えない部分があると感じている方もいるのではないだろうか。短期の生徒の変化は追えても、社会に出てどうなったか、長期の変化まではなかなか追えないからだ。

その残された疑問に迫ろうとしたのが、リクルートワークス研究所の辰巳の研究だ。1730人の社会人に対して「高校時代の経験から何を学んだか」を調査。さらに、この調査結果をもとに、400人の社会人に「高校の教科学習で知識・技能以外に得たもの」と「社会人になってから使っている力」を別々に尋ね、統計的手法で両者にどんな関連性があるか明らかにした。そこから何が見えてきたのか、ポイントをお伝えしたい。

部活動やイベント、アルバイトよりも授業のほうが幅広い「内的経験」を獲得していた

研究では、今働いている社会人が、高校時代の「教科学習」「部活動」「文化祭などの学校行事」「アルバイト」の4つの経験からどんな「内的経験」を得てきたかを調査した。内的経験とは、さまざまなできごとを理解・解釈するなかで本人の内側に養われたものだ。例えば「班活動」という他人の目にも見える外的経験を通して、「他者と協力して共通の目標を成し遂げる方法を学んだ」という内的経験も得るといふ具合に。

調査結果によると、社会人にとって、高校時代に獲得した内的経験が最も多岐に渡っていたのは教科学習だった。特に「自信」「継続する習慣」「失敗から学ぶこと」を得たという反

応が多く見られた。日常の授業から、生徒たちが知識以外にも多くのことを学んでいることが実証された形だ。また、教科学習から得た内的経験を整理すると、「集団で取り組む」「セルフマネジメント」「自分の考えをもつ」ことを学んだ、という3要素に分けることができたという。

教科学習から得たさまざまな内的経験が仕事で活用する力の礎になっていた

次に研究では、「高校の教科学習で得た内的経験」と「社会人になってから使っている力」との結びつきを分析した。

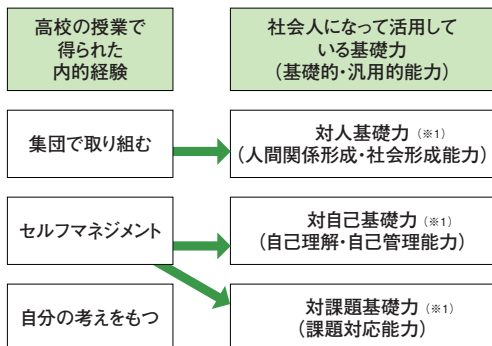
すると、文部科学省が定義した「基礎的・汎用的能力」に沿って言えば、高校時代の授業で「集団で取り組む」ことを学んだ人は、仕事で「人間関係形成・社会形成能力」を多く活用していたという。また、授業で失敗から学ぶことや自分なりのやり方で解決することなど「セルフマネジメント」を習得した人は、仕事で「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」を活用していた(図表1参照)。

このほか、高校時代の教科学習で物事の本質をとらえるなど「自分の考えをもつ」ことをしてきた人は、進学先の専攻分野もおもしろいと感じていることや、社会に出てからの学習時間が長いことも示された。高校の授業を通して学んだことは、進学・就職後もたしかに生きていたのだ。

生徒たちが獲得している内的経験は、教科によってかなり違う?

研究ではさらに「どの教科でどんな内的経験を得たか」も調査。国語は「自分の意見をもつ」の項目に、数学は「自分なりに解決する」の項目に、英語は「継続する」の項目に高い反応が示されるなど、教科によって獲得している内的経験が異なることも示唆された(図表2参照)。こうした内的経験の枠組みや、内的経験と社会で活用する力の結びつきを、授業のねらいや手法を考える時に先生方にも参考にしていただきたい。

【図表1】教科学習の内的経験と社会人が活用する力の結びつき



(※) 矢印が結びつきの強いところ。内的経験の「自分の考えをもつ」については、「大学時代の学習満足度」「社会人になってからの学習習慣」への影響が確認できた。
(※1) 「基礎力」は辰巳が研究の中で統一して使用している言葉。その後に続く()内に記載した文部科学省の定義した「基礎的・汎用的能力」と合致する。

【図表2】内的経験と主要5教科の関係

内的経験		国語	社会 (※1)	数学	理科	英語
集団で 取り組む	協調性やチームワークが養われたこと					△
	対人コミュニケーションが養われたこと	○				○
	集団で物事を進める基本的なスキルが身についたこと	△	△			△
セルフ マネジメント	精神的なタフさ、精神力が養われたこと	△	△	○	△	○
	継続的に努力する習慣や態度が身についたこと	○	○	◎	○	◎
	失敗や困難な体験から学ぶことができたこと	△	△	○	○	○
	自分に自信が身についたこと	△	○	○	○	○
自分の 考えをもつ	つまずいた時に自分なりのやり方で解決していく方法を身につけたこと	△	△	◎	○	○
	物事の本質をとらえる力が身についたこと	○	○	○	○	△
	既成の概念にとらわれず自分の頭で考えること	○	○	○	△	△
	社会に関心をもつこと	△	◎			○
	自分の意見をもつこと	◎	○	△	△	○

(※) 教科で得られた内的経験は、具体的にどの教科で得たかを聞いた結果。反応率が高かったところにマークを記入。◎が特に反応率が高かった箇所。
(※1) 社会は、地理歴史公民および倫理や政治経済。

引用元：辰巳哲子、2014、『キャリア発達を促す「基礎力」の獲得に高校での経験が果たしている機能』筑波大学大学院人間総合科学研究科修士論文(未公開)